

ひと・ネットワーク 127

「男ボラ・ネットへのお誘い」

かながわ男性福祉
ボランティアネットワーク
事務局長 鈴木尊吉



いま、県内各地で中高年男性のボランティア・グループがさまざまな活動をしています。

その地域の障害のある方々やお年寄りのために、定年後の男性たちが、それまでの経験を生かしてお手伝いしていこうというものです。庭木の手入れ、大工仕事、病院や買物の付き添い、送迎、囲碁将棋の相手などなど、地域で必要とされるものなら何でもやるグループです。

その男性ボランティア・グループのネットワークができたのは、平成13年の「全国ボランティアフェスティバルかながわ」のテーマ別のつどいがキッカケでした。

この時、開催地神奈川ならではの多彩なつどいが開催されました。

中でも本県で活発に活動を展開しつつある男性福祉ボランティアのグループ活動は、従来のボランティア活動に大きな変貌をもたらし、その事例発表は多くの参加者の注目をあびました。

これを機に、これだけ必要とされている男性福祉ボランティアの重要性をより多くの方々に知っていただき、また情報交換を通じて活動の糧としたいという願いが、この「かながわ男性福祉ボランティアネットワーク」という長い名前のグループの誕生につながりました。

ネットワークでは、男性ボランティア・グループの現状調査を行い、そこでの課題と求められる対応策を互いに研究し合い、ボランティア講座の入門編・中級編などのプログラムを用意し、各種講座での実践を考えています。

こうした試みが、県内各地の男性ボランティア・グループ誕生に寄与し、またグループ相互の協力体制によって更に活発な活動に結びつくことを念願しています。

お問い合わせは ☎・FAX042-744-7257まで

います。「先天性のものだけでなく、事件や事故などで痣や傷を負ってしまった方々は、傷そのものを克服する辛さにあわせ、現状の自分自身を乗り越えていかなければならないのです。心の傷を乗り越え立ち直ろうとする気持ちに、大変な重荷となつてのしかかってくる『傷跡』。私たちはスキンカモフラージュを通じて、その傷の背後にある、本人やその家族が抱える深い心の傷をどう受け止め、癒していくかを考えていかなければならないと考えます。スキンカモフラージュは魔法ではありませんので、痣や傷を一時的に隠すことはできません。まして消すことはできません。まし

てや痣や傷を見る度に思い出してしまう悲しい出来事や辛い記憶などは、どんな技術を持ってしても消すことはできないのです。私たちは肌を通して相手の心の声に耳を傾け、気持ちに添えるよう努力します。スキンカモフラージュにより、これまで痣や傷によって隠されてしまいがちだった自分本来の姿を引き出し、力強く生きようとする一歩を踏み出して欲しい。そんな願いを込めて今後も活動を続けていきたいと思っています」と

◆日本ロイヤルライフセイビング協会
☎ 0466-3616223
email: tyon@h.dion.ne.jp
URL: <http://www.royalife.org/>

今回の取材で印象に残ったのは、何度も化粧を施したことがある講習生さんなのに、その都度使用する色の説明をしたり、肌に手を触れる度に「ごめんね」「大丈夫？」「どんな感じ？」と声掛けしていた白石さんの姿。これまでに痣があることで、精神的に辛い思いをしてきた方の心に、白石さんの温かな「言葉」という化粧が施されていくような感じがしました。

最近高齢者施設などでも、お誕生会などの行事や訪問者との面会の折に、職員から化粧を施してもらう光景がよく見られるようになってきました。入所の理由は、健康上の理由や家庭での問題など人に

よって様々ですが、加齢への不安と地域や家族から離れた生活で、喪失感を抱きがちが高齢者にとって、化粧を、ただ外見を美しくするものと捉えるのではなく、心をも彩る一つの手法として考えてみては如何でしょうか。

「顔に刻まれたしみや皺は、その人の人生そのもの。たくさん思い出が刻まれている」と話す白石さんの言葉のとおり、その一つひとつに触れ、語り合う時間を大切にすること。そして、彩られた姿を他人に見せるだけでなく、自身が見つめることで、自分という人間の存在の大切さ・尊さを感じることができるとはと思います。

(企画課)